

教科用図書調査報告書

甲府市教科用図書採択審議委員会

1 種目 特別の教科 道徳

2 報告概要

教科書名 出版社名	特 徴
東京書籍 新編 あたらしい どうとく 新編 新しい どうとく 新編 新しい道徳	<p>（1）道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることができる内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「考えよう」で、内容に関する問いと自分自身について考える問いの2つが組み込まれているのが良い。 ・巻頭に「道徳の学習をはじめよう」のページを設け、道徳の学習の進め方と授業の様子を具体的に4つのステップで示している。 ・巻頭の「どんな学びをするのかな」のページで、「気づく」「考える」「広げる・深める」具体的な学びの姿が示されている。 ・役割演技を取り入れた教材があり、具体的な表現活動を通して、道徳的な感じ方や考え方を深めることができる。多面的・多角的に考えを深めることができるように、発達段階に応じた思考ツールを掲載している。 ・道徳の学び方、話し合いの仕方、考えるためのツールなどもついており、考えを深めるのに有効である。 ・「いじめ」「情報モラル」「いのち」「じぶん」「安心安全」の教材を学んだあとに、「つながるひろがる」で他の学習や普段の生活に広げるための工夫がある。 ・各教材の最後に「考えよう」のコーナーがあり、厳選された発問が二つずつ書かれている。 ・教材文の題名の前に主題名が書かれている。 ・巻頭の「ちょっと話し合ってみよう！」では、短いお話を読んで考えたことを話し合うようになっており、どんなふうに道徳の授業で考えていったらいいのか、練習できるようになっている。 ・登場人物の設定が、老若男女だけでなくいろいろな視点から幅広く取り上げられていることで、児童はいろいろな立場から物事を考えたり、気持ちを思いはかることができる。 ・巻末の考えさせるためのツールの種類が多く、様々な方法で活用することができる。 <p>（2）心身の発達段階に適応した教材が取り上げられており、児童の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルコンテンツから、「朗読」「紙芝居」「ワークシート」が使える。動画が見られる教材もある。 ・巻末に、「考えるためのツール」として「心のものさし」「心の地図」「心のメーター」などが紹介され、自分の心の中を見つめ、友達と考えを比べるような活動ができるようになっている。 ・「いじめ」「SDGs」など、現代的で多様なテーマと向き合うようになっている。

- ・学校生活に即した教材が多く、他教科とのつながりを示すページもあり、児童の興味関心・視野を広げられる。
- ・いじめ問題や情報モラルなど時代に合わせたテーマが取り上げられている。
- ・「いじめ」「人権」「価値観の多様化」などに対して、身近な生活で起こりうる視点から考えることができる教材が取り上げられている。
- ・児童の身近な生活場面から問題解決的な学習につながる教材が設定されている。
- ・他教科とのつながりが意識されている。(つながる 広がる)
- ・デジタルコンテンツが充実している。
- ・あなたはどう～・4天災は～ 33東京大空襲～ 34小さな連絡船～ コロナウィルス感染症、戦争や東日本大震災の教材を通して、命の大切さや自分の役割について身近に考えることができる教材がある。
- ・学校生活に即した教材が多く、他教科とのつながりを示すページもあり、児童の興味関心・視野を広げられる。
- ・著作権などの情報モラル、休み時間の問題など、児童の生活の中で起こりそうな内容が教材として取り上げられている。
- ・児童の発達段階に適応した情報モラルに関わる教材を取り上げている。
- ・教材の終わりにある「かんがえよう」の下のイラストが、子どもが水をあげていくうちに植物が育ち、花が咲くといった構成になっており、児童の興味関心を引いている。

(3) 「A主として自分自身に関すること」「B主として人との関わりに関すること」「C主として集団や社会との関わりに関すること」「D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の視点に含まれる全ての内容項目の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮がなされているか。

- ・「A」「B」に重点を置いている。発達段階を考慮していると感じる。
- ・児童の生活実態や体験活動等に合わせて指導ができるように、学習内容と学習時期を考慮して教材を配列している。
- ・4つの内容項目がほぼ均等な割合で取り上げられている。(20-27-27-27)
- ・それぞれの視点の教材が8～10含まれている。構成や配列のバランスが取れている。
- ・いじめ防止について、異なる内容項目を組み合わせる複数時間ユニットとして組んでいる点が良い。(いじめを深く考える工夫)
- ・「学習の記録」のページがあり、教材ごとや長期休業前、学年末に、学習を振り返ることができる。
- ・デジタルコンテンツの中のデジタルノートを使ったり、教科書の中に書き込んだりすることで、自主的な学習が進められる。
- ・教材は内容項目ごとまとめずに、指導時期を考えて配置されている。
- ・目次の後に内容項目ごとの教材名が書かれているページがある。4つの内容項目のバランスが良い。
- ・デジタルコンテンツを使うことで、自主的な学習が進められるようになっている。
- ・児童の発達に応じて内容項目を扱う教材の軽重が明確につけられている。(低学年…自分自身に関することや人との関わりに関することが多い。高学年…集団や

社会との関わりに関する内容・自然や生命尊重が多い。)

- ・巻末にある様々な思考ツールは、自分の考えを可視化でき、対話的な学習へとつなげやすい。
- ・巻頭の「道徳の学習をはじめよう」のページに、内容項目ごとに教材が分類されていて、児童が何を学ぶのか学習の見通しを持つことができる。
- ・「いじめ」ユニットは、直接的に考える教材と間接的に考える教材、コラムから編成されていて、「いのち」「じぶん」ユニットとあわせて、いじめ防止について多面的・多角的に考えることができる。
- ・教材がどの教科と関連しているのかが明記されている。
- ・関連図書の紹介が多く載せられている。

(4) 表記や表現、写真や挿絵等が適切であり、学習意欲を喚起するよう配慮されているか。

- ・写真や挿絵が学年の発達段階に応じた配置で、好印象を受ける。
- ・イラストが大きめで、はっきりとしており、挿絵の登場人物の表情が読み取りやすく、児童が、それぞれの場面の前後関係を理解したり、登場人物の気持ちを想像したりすることの手助けとなっている。
- ・デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数が多。(3年53)
- ・挿絵や写真が多く、2次元コードもそれぞれの教材についていて視覚的にもとらえやすくしている。
- ・文字(フォント)が読みやすい。
- ・挿絵のバランスがよく見やすい。
- ・思考ツールが巻末にあり、2次元コードでデジタルコンテンツとしても使えるようになっている。
- ・デジタルコンテンツが豊富である。朗読、スライドショー、デジタルノートが教材についている。また、さらに詳しい動画が観られる教材もある。
- ・本文のフォントが読みやすいものになっていて、挿絵や写真も見やすいものになっている。
- ・写真がダイナミックで大きく美しい。
- ・UDフォントが見やすく、学習への集中力につながる。
- ・学習していない漢字に振り仮名がついている。
- ・写真やイラストのタッチも教材ごとに異なり、配置されているバランスもよい。
- ・ダイナミックな写真や表情豊かな挿絵が児童の学習意欲を喚起する。

教育出版

しょうがく
どうとく
小学どうとく
小学道徳

(1) 道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることができる内容であるか。

- ・モラルに関する内容の教材が多い印象がある。良くない台詞やふるまいの部分を太字にしたり、文字を大きくしたりするなど、児童にも捉えやすい工夫がしてある。
- ・巻頭で、道徳の学習の進め方とそれに関わる授業の場面を具体的に示し(考えよう、ふかめよう、つなげよう)、学び方を確認することで、児童の理解を助けている。

- ・「やってみよう」で役割演技、「たいけん」では体験的な学習を取り入れられるようになっている。
- ・各教材に「振り返り」のコーナーがある。考えを広げたり深めたりするための発問がそれぞれの教材についている。
- ・「いじめ問題」「自然環境」「感謝」に重点を置いている教材配置になっている。同じ主題を2週にわたって異なる教材で扱うことで多面的・多角的に考えることができる構成になっている。
- ・コラムや巻末資料を使用することで道徳的価値や教材の理解度を深めることができる。
- ・導入における問い、キャラクターの問いかけや教材末の発問（考えよう、深めよう）という学習の流れが明確に示されている。道徳的価値を理解するとともに自己を振り返って考え、考えの変容や振り返りを実感できるような工夫がされている。

(2) 心身の発達段階に適応した教材が取り上げられており、児童の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。

- ・二次元コードが多く配置されていて、リンク先を見ると、教材の解説などが確認できる。
- ・巻末の学習内容一覧に、他教科、領域との関係が分かるような記載があり、学びを広げるための資料として活用できるようになっている。
- ・児童が共感したり、理解したりできるような教材が多い。
- ・学校生活に即した教材が多い。昔話や伝記なども読みやすいように挿絵や写真が工夫されている。
- ・SDG s や情報モラル、いじめに関連する教材を複数取り上げている。
- ・「モラルスキルトレーニング」が3教材、問題解決型教材が2教材あり、子供たちは実践を通したり、考え議論したりすることで、自分たちの生活と結びつけることができる。

(3) 「A主として自分自身に関すること」「B主として人との関わりに関すること」「C主として集団や社会との関わりに関すること」「D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の視点に含まれる全ての内容項目の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮がなされているか。

- ・体験的な学習を仕組むためにモラルスキルトレーニングのコーナーを取り入れたりと、役割演技を通して考えさせたりするなど、工夫した構成となっている。
- ・内容項目の学習時期にばらつきがあり、さらに見出しが項目ごと色分けされていて分かりやすい。
- ・それぞれの視点の教材が6～10含まれている。Dの項目の教材が少し少ない。
- ・「まなびリンク」につながる二次元コードで、教材の理解を深めたり、学習を広げたりする工夫がされている。
- ・各教材の始めの「問い」、終わりの「考えよう」「深めよう」で、1時間の学習の流れが示されていて取り組みやすい
- ・体験的な学習を仕組むために、アクティビティやモラルスキルトレーニングを取

り入れたり、教材によっては役割演技を通して考えさせたりするなど、工夫された学習活動を取り入れている。

- ・教材は内容項目でまとめずに、指導時期を考えて配置されている。時期を変えることで、児童の成長が見とれる。他の内容項目の学習をもとに新たな観点で学ぶことができる。

(4) 表記や表現、写真や挿絵等が適切であり、学習意欲を喚起するよう配慮されているか。

- ・写真が少なく挿絵が多い。その分、児童の想像力をかきたてるような挿絵の工夫を感じられる。
- ・教材内容の理解を進めるために、児童のイメージを広げる手助けとなるキャラクターの吹き出しや挿絵、写真、図などが適所に配置されている。
- ・デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数が一番多い。(3年61)
- ・ICTツールを使用した学び方についても説明されている。QRコードもそれぞれの教材についている。文字サイズが大きく、ふりがなも多く付けられている。
- ・キャラクターが親しみやすい。
- ・全教材に二次元コードがあり、学びリンクにつながる。授業の導入や登場人物を確認することに使用できる。端末持ち帰りの際の家庭学習などでも使用できると感じた。
- ・教材内容の理解を支援するために、児童のイメージを広げる挿絵や写真などが、適所に配置されていて学習効果をあげている。
- ・児童にとって難しいと思われる言葉には脚注が加えられている。

光村図書
どうとく
道徳

(1) 道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることができる内容であるか。

- ・「かんがえよう」「はなしあおう」で始めに提示されている発問は、授業を進める上でも使いやすいと感じる。
- ・巻頭で、道徳の学習の進め方として「みんなで気持ちよく話し合うためのコツ」を紹介し、話し合いのやり方と話し合いの大切さを示している。
- ・「演じて考えよう」「心を通わそう」「こんな活動で考えることもできるよ」など体験的な学習を取り入れている。
- ・「考えるヒント」のコーナーで、話し合いに使う言葉や、役割演技などを取り上げ、考えを深める工夫がなされている。
- ・これまで受け継がれてきている物語教材、実際の出来事の教材、時代にあった教材など、バランスよく幅広い視点から問題や出来事について考えられると感じた。自己の生き方についても考えることができ、深い学びにつながると思う。

(2) 心身の発達段階に適応した教材が取り上げられており、児童の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。

- ・二次元コードは一教材につき朗読か画像といったシンプルな構成になっている。
- ・巻末に、「学びの記録」が見開きで綴じこんであり、自分の学習の足跡を振り返ることができるように、児童の発達段階に応じて記載されている。

- ・付録の教材が、社会や理科の学習内容と関連している。
- ・日常生活に即した教材が多い。児童の視点で表現されている教材が多い。
- ・⑬世界人権宣言の条文から学ぶ機会がある。実際の条文を用いて理解し考えることは、6年生にとって自分たちのこれからの生き方を考えることにもつながると感じた。

(3) 「A主として自分自身に関すること」「B主として人との関わりに関すること」「C主として集団や社会との関わりに関すること」「D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の視点に含まれる全ての内容項目の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮がなされているか。

- ・「A」～「D」までバランス良く配置されている。
- ・巻末に各教材と内容項目との関係、他教科や現代的な課題との関連などを分かりやすく示しており、それぞれの内容項目ごとに指導内容の可視化を図っている。
- ・教材への向き合い方のヒントが提示されている。(教材との対話→自分との対話→友だちとの対話)
- ・それぞれの視点の教材が5～11含まれている。Dの項目の教材が少ない。
- ・「気づく」「考える」「つなげる」の学びの手順や「話し合うためのコツ」、中ほどにある「考えるじゅんびたいそう」、巻末の「学びの道具箱」など、学習の進め方や思考を深めるツールが具体的に示されていて分かりやすい。
- ・内容項目の構成がABCDの順に配列されている。内容項目ごとに学びを進めていくので、授業回数を重ねるごとに考えが深まる。

(4) 表記や表現、写真や挿絵等が適切であり、学習意欲を喚起するよう配慮されているか。

- ・巻末の「学びのきろく」にシールが付いている。木の実を貼り付けていく形で、3種類の色に優劣がなく、自分の気持ちに沿って貼れるようになっている。
- ・視覚的に児童の興味関心を喚起するマンガ形式の教材や見開き1枚の絵や写真からなる教材など、読み物だけにとどまらない多様な教材を採用している。
- ・本の大きさが一番小さい。マンガ形式の教材もある。
- ・さまざまな種類の挿絵、写真がある。漫画形式で書かれている教材もある。付属のシールを張り付けて表現する「学びの記録」が巻末についている。
- ・図や絵が多く、分かりやすい。キャラクターも親しみやすい。
- ・紙の色が少し黄色がかっていて温かみがある。
- ・音声資料がある。範読もいいが、活用することで集中して授業に臨める。
- ・「学びの準備」「話し合いのコツ」「挿絵」など、子供たちにとって分かりやすい言葉や絵で表現されている。

日本文教
出版
しょうがく
どうとく
小学どうとく
小学道徳

(1) 道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることができる内容であるか。

- ・教材の始めに「問い」を設定している。登場人物を紹介したり話のあらすじを提示したりして、国語の読み取りになりがちな要素を取り除いている印象を受ける。

- ・巻頭に「道徳の学び方」が掲載され、「気づく、考える・深める、見つめる・生かす」という学習の進め方が示されていて児童が道徳の学び方を意識できるようになっている。
- ・道徳で学習したことと日常生活を結びつけるページが巻末にある。
- ・付属の「道徳ノート」があり、毎時間ごとに記録を取り、振り返りもできるようになっている。
- ・自己肯定感を養うために「個性の伸長」「感謝」の項目を重視している。
- ・問題解決型の学習や体験的な学習につながる「ぐっと深める」マークのついた教材が5つある。

(2) 心身の発達段階に適応した教材が取り上げられており、児童の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。

- ・「こころのベンチ」で、体験的に実践できそうなことが紹介されている。
- ・「人との関わり」を大切なテーマの一つとし、複数教材や関連するコラムをユニットにしてまとめて配列し、重点的に学習できるように工夫されている。
- ・ペア学習やグループ学習など様々な学習形態を取り入れた教材がある。
- ・日常生活に即した教材もあるが、昔話や外国の話など、様々なジャンルの話で構成されている。児童の見聞を広げるのに有効だと考えられる。
- ・デジタルコンテンツが充実している。(心情メーター・シンキングツール)
- ・最後の教材「ゴゴ94歳の小学生」は、学校で学ぶことの意義やこれからの生き方について考えることができる教材である。

(3) 「A主として自分自身に関すること」「B主として人との関わりに関すること」「C主として集団や社会との関わりに関すること」「D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の視点に含まれる全ての内容項目の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮がなされているか。

- ・「B：人との関わり」より「C：集団や社会との関わり」に重点を置いている。発達段階に応じた内容項目の精選がされている。
- ・児童の発達段階への配慮とともに、生活目標や学校行事、他教科等の学習内容、伝統的な行事の実施時期等を考慮して教材が配列されており、巻末に一覧表としてまとめてある。
- ・巻頭の「どうとくの学び方」で、考え方の手順が示されている。
- ・それぞれの視点の教材が6～13含まれている。Cの項目の教材が多い。
- ・いじめ問題は、複数の教材と「心のベンチ」「ぐっと深める」で体験的に学ぶ学習が設定されていてよい。
- ・別冊「道徳ノート」の記載欄は、自由記述欄と罫線で、多様な指導の展開が可能。ノートの印刷・貼り付けの作業が不要な点もよい。
- ・教材は内容項目まとめずに、指導時期を考えて配列されている。

(4) 表記や表現、写真や挿絵等が適切であり、学習意欲を喚起するよう配慮されているか。

- ・道徳ノートを活用できるのは良い。1年生のはじめは丸を付けるのみなどの工夫

	<p>がされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別冊の「道徳ノート」があるので、1時間ごとの学びを残すことができる。また、文字の大きさや書体、罫線囲みの使い方、色使いなどのレイアウトを工夫して、教材の情報を理解しやすくしている。 ・教科書のサイズが横に大きく、1ページの中にゆとりがある。QRコードもそれぞれの教材についている。見開き2ページにわたる大きい写真もあり、挿絵や写真の表現も工夫されている。 ・文字が読みやすい（大きさ・フォント）。 ・各教材のはじめの「リード文」と「主な主人公」により、内容が確認しやすく、話し合いに時間をかける手助けになる。
<p>光文書院 しょうがく どうとく 小学どうとく 小学道徳</p>	<p>(1) 道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることができる内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「SDGs」を扱い、新しい内容を取り入れている。学びの手順、考え方、話し合い方など学習に取り組むための情報が豊富に掲載されている。 ・巻頭に「道徳の時間はこんな時間です」があり、「問いを見つけよう」「考えよう」「まとめよう・振り返ろう」「広げよう・つなげよう」という学習の進め方や内容などについて児童が意識できる学び方が紹介されている。 ・対話ツール、思考ツールなど、物事を多面的・多角的に捉えられるような工夫がされている。 ・道徳の学び方、話し合いの仕方、考えるためのヒントを示したページがある。「学びの足あと」という授業記録用のページが巻末にある。 ・巻頭の対話ツールや思考ツールは、多面的・多角的に考える手助けになる。 ・「いじめを生まない心」「生命尊重」「共生」に重点を置いている教材配置になっている。同じ主題を2週にわたって異なる教材で扱うことで多面的・多角的に考えることができる構成になっている。 ・学習を深めるための項目が児童にも分かりやすく提示されている。学習の振り返りができるように工夫されている。 <p>(2) 心身の発達段階に適応した教材が取り上げられており、児童の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校たんけん、町たんけん、スマートフォンやゲーム機など、身近に行うことや使用する物を題材に多く取り入れている。 ・学習のまとめとして、挨拶や言葉遣いなど道徳的实践力を高める活動を示唆したり、家庭・地域での活動で実際にやってみるとよいことを紹介したりしている。 ・教材を多く取り上げ、学校の実情に応じて選択できるようふろく教材がある。(教材数40) ・様々なジャンルの話で構成されている。児童の見聞を広げるのに有効だと考えられる。 ・ふろくの教材が充実している。 ・「一年生のお世話係」「本当に大丈夫？」など、現代の子どもたちの興味や関心に沿った内容になっている。

- ・「国際理解」「真理の探究」など、6年生の今後の生き方を学ぶことにつながる教材が特徴的である。

(3) 「A主として自分自身に関すること」「B主として人との関わりに関すること」「C主として集団や社会との関わりに関すること」「D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の視点に含まれる全ての内容項目の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮がなされているか。

- ・教材数（付録を含めると40）、ページ数が多く、内容量が非常に多い印象。「C：集団や社会との関わり」に重点をおいている。
- ・学習時期と教材内容の時期が一致するよう、教材の順番等に配慮がされており、内容項目が系統的に考えられるよう、教材の配置が網羅されていて、巻末に一覧表も記載されている。
- ・4つの内容項目がほぼ均等な割合で取り上げられている。(27-33-20-20)
- ・教材は全部で40。それぞれの視点の教材が7～14含まれている。実態に合わせて教材を選ぶことができる。それぞれの視点ごとにページの色を変えて表現されている。
- ・巻末「学びの足あと」で△心の矢印の使い方がよい。
- ・「かんがえよう」「まとめよう」「ひろげよう」で提示されている内容を自主的に考えることで学びを深めることができる。
- ・教材は内容項目でまとめずに、指導時期を考えて配置されている。

(4) 表記や表現、写真や挿絵等が適切であり、学習意欲を喚起するよう配慮されているか。

- ・題材に応じて挿絵の雰囲気は全く異なるため、学習するには新鮮味が感じられる。
- ・文字が読みやすい（大きさ・フォント）
- ・すべての漢字に振り仮名がついている。
- ・各教材のはじめに登場人物の紹介があり、教材の内容を理解しやすい。
- ・内容項目を子どもたちにとって分かりやすい言葉に置き換えている。目的意識をもちやすい。
- ・二次元コードの内容を、終末に取りあげることで学びを深めることができる。
- ・学びのあしあとがあることで自分自身の変容を読み取りやすい。

学研
新版
みんなの
どうとく
新版
みんなの道徳

(1) 道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることができる内容であるか。

- ・同じ教材文でも、他社では話が結末まで書かれているが、当社は含みをもたせて話の続きを掲載しないなど、児童に考えさせようとする意図を感じる。
- ・巻頭に「道徳の学習がはじまるよ」という学習の進め方や4項目に沿った内容などについての紹介があり、児童が学び方を意識できる構成になっている。
- ・教材冒頭に主題名が示されておらず、児童に学習前に特定の価値観を押し付けることなく、児童自らが主体的に課題を見つけ出し、解決する資質や能力を培

うことを重視し、教材を通して多面的・多角的に考えることができるように工夫されている。

- ・教材の中に異なる複数の意見を示したり、4種類の「学び方のページ」（つなげよう、深めよう、広げよう、やってみよう）を設定したりすることで、児童が多様な学習過程の中で考えを深められるように工夫されている。
- ・教科書に書き込みながら理解を深めていくページがある。ただ教材文を読むだけでなく、資料を用いて児童が考えを深めることができる工夫がされている。
- ・主題名を子供たちが目にする紙面に載せないことで、様々な授業展開に対応ができる。いろいろな考えを学びに生かすことができる。
- ・挿絵が全体的に明るく、教材の内容をとらえやすく提示されている。教材の最後に考え方のポイントとして主発問が明確に示されている。
- ・教科書に書き込みながら理解を深めていくページがあり、授業を受けながらその時の自分の考えをすぐに書き留められるようになっている。
- ・ただ教材文を読むだけでなく、資料を用いて児童が考えを深めることができる工夫がされている。
- ・教材文の題名の下に一文があり、その言葉が児童の興味関心を高めている。
- ・一つ目の教材では詩が三つ紹介されて多様な感じ方や考え方を認めようとする心を育むことができる。
- ・「生命の尊さ」や多様性に関わる教材、「いじめ防止」に関わる教材など、様々な内容項目において「いのち」について多面的に考えることができる内容になっている。
- ・教材に付随する「心のパスポート」では、教材での学習をもとに、自己に向き合って考えを広げたり深めたりすることができる。
- ・教材の終わりにある「考えよう」で、内容に関する問いと、自分自身について考える問いの2つが組み込まれているのが良い。
- ・現行版にも初めと終りに自分のことを書き込んだり、心に残ったおはなしを書いたりするページがあるが、新版は始めに今の自分を見つめて書き込むページ、最後は次の学年につなげる視点で書き込むページとなり、より工夫されている。

（２）心身の発達段階に適応した教材が取り上げられており、児童の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。

- ・学習を進めながら教科書に書き込めたり、教材によって掲示資料やワークシートをダウンロードすることができたりする点が良い。
- ・内容項目の定着に向け、マークやキャラクター、問いかけなどによるアプローチによって学ぶことで、児童の道徳的実践力を育てる工夫がされている。
- ・児童が共感したり、理解したりできるような教材が多い。
- ・日常生活に即した教材もあるが、昔話や外国の話など、様々なジャンルの話で構成されており、児童の見聞を広げるのに有効だと考えられる。
- ・デジタルコンテンツが充実している。
- ・「命」「多様性」「キャリア教育」「情報モラル」「いじめ防止」等、数多くのテーマに対応した教材がある。
- ・「心のパスポート」という発展的学習のページがある。
- ・児童もよく知っているような有名な歴史上の人物やスポーツ選手などを取り上げ

ており、興味をもって教材に親しむことができる。

- ・今を生きる人物や記憶に新しい出来事など、児童が意欲的に取り組むことができる教材が取り上げられている。(藤井聡太、池江璃花子、大村智等)
- ・教材の場面設定が、子供の日常と関連しており、登場人物に共感しやすい内容となっている。
- ・時代に左右されず、考えを深められたり、深く学ぶことができる教材が厳選されている。
- ・様々なジャンルで活躍する人や、児童の親しんでいるアニメ、SDGsやUDなど、児童の関心が深い人物や話題を多く取り入れている。
- ・これまで多く取り上げられてきた優れた教材や、現代的な課題についての教材が、バランスよく取り上げられている。
- ・児童の発達段階に適応した情報モラルに関わる教材を取り上げている。
- ・教科書に使われているマークごとに(「わたしのこと」「あなたとわたし」など)見出しが色分けされている点分かりやすく良い。

(3)「A主として自分自身に関すること」「B主として人との関わりに関すること」「C主として集団や社会との関わりに関すること」「D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の視点に含まれる全ての内容項目の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮がなされているか。

- ・「A」が他社と比べて最も多い。「A」「B」の扱いに重点を置いている。各学年の発達段階に応じた適切な配置がなされているのではないかと感じる。
- ・教材が、「私のこと」「あなたと私のこと」「社会と私」「いのちや自然と私」の4つの視点で色分けされており、どんな内容を学んでいるのか理解しやすい構成になっている。
- ・4つの内容項目がほぼ均等な割合で取り上げられている。(27-27-27-20)
- ・4つの内容項目のバランスが良い。目次やそれぞれの教材文に内容項目を示すマークがついている。
- ・それぞれの視点の教材が6～11含まれている。構成や配列のバランスが取れている。
- ・1つのテーマで、異なる内容項目の教材でユニットを組んでいる点が良い
- ・「いじめ防止」に関わる2教材のバランスが良い
- ・巻頭、巻末など随所に自分のことや自分の考えを記述する欄があってよい。
- ・教材は内容項目ごとにまとめずに、指導時期を考えて配置されている。
- ・山梨県出身でノーベル生理学医学賞を受賞した大村智先生や、卓球の平野美宇選手など、各分野で活躍している郷土にゆかりのある人物、世界文化遺産として登録された富士山や西湖に生息していたクニマスを教材として取り上げるなど、身近な地域教材を採用するとともに、郷土への愛着と誇りを育むことができる内容になっている。
- ・小学校1年生から6年生までの成長の過程における特徴が考慮され、保幼小連携や小中連携の連続性も踏まえた内容と構成になっている。
- ・デジタルコンテンツの中の動画やクイズなどで自主的に学習を進め、学びを深めることができる。

- ・低学年は、発達段階を考慮し内容項目数に軽重がつけられている。高学年は、2年間を見通し、4つの内容項目が等バランスになるように考慮されている。
- ・目次の次のページに内容項目のカラー別の見開きがあり、視覚で意識できるようになっている。
- ・タイトルの下に、教材に関する一言が書いてある。児童が意欲的に読み、考えたいくなる内容で、教材へスムーズに入ることができるような工夫がされている。
- ・「いじめ防止」につながる教材が、年感を通してバランスよく配置されている。
- ・タイトルの下に関連する学びのテーマを示すマークが書かれている。様々なテーマで学びを広げることができる。
- ・教材文の後に2つ程度の発問なので、道徳的価値について考える時間が確保しやすい。
- ・巻頭の「つながる私 広がる私」、巻末の「つなげよう 広げよう」が設けられていて、児童が自分の成長を感じることができる構成になっている。
- ・生活科の学習と関連した教材が多く取り入れられている。

(4) 表記や表現、写真や挿絵等が適切であり、学習意欲を喚起するよう配慮されているか。

- ・挿絵や写真のバランスが良い。字数が多いという印象を受けないので、学習に取り組みやすいと感じる。
- ・児童に自分自身の生活との関連を想起させ、興味関心を喚起させるように、表情豊かな人物のイラストや、場面をイメージしやすい挿絵などが豊富に配置されている。
- ・教材に付随する「心のパスポート」がある。
- ・文字サイズが大きく、すっきりとしていて教材文が読みやすい。QRコードがついている教材もあり、ワークシートや動画、画像、発展資料が見られるようになっている。
- ・デジタルコンテンツは他会社の教科書と比較をすると少ないが、教材の理解を深める内容になっている。クイズなど楽しみながら学ぶことができる内容もある。
- ・裏表紙の鮮やかな写真と印象的な詩は、児童の道徳の授業への興味関心を高めることにつながっている。
- ・本文と挿絵・写真のバランスが良い。
- ・挿絵のタッチが教材によって違ったり、写真や漫画などになっていたり、教材によって使い分けされており、教材に入り込みやすく分かりやすい。
- ・挿絵と本文を中心にページが構成されている。(表記が難しい言葉には脚注がある)教材を基に、各教員のねらいに応じて学びを深めるアレンジができる。
- ・デジタルコンテンツは、教材に関する動画や画像などが見られ、児童が教材へのイメージを膨らませやすい。クイズや、関連する外部サイトも見られ、児童が主体的に楽しく学習が進められる工夫がされている。
- ・教科書のサイズが小さくなり、扱いやすくなった。
- ・文字が大きく、教材が見開きで構成されていて、見やすい。
- ・漢字だけでなく、片仮名にもふりがなをふっている。
- ・教科書の大きさが現行版よりも小さくなり、見やすく持ちやすいサイズで良い。